

令和5年度第2回北海道立旭川美術館協議会議事録

旭川美術館協議会は、学識経験者、学校教育関係者、社会教育関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者及び公募の委員で構成され、毎年度2回開催されます。

美術館の活動について、館長に意見を述べる諮問機関です。

- 1 日 時 令和6年2月28日（水）14時00分～15時00分
- 2 会 場 北海道立旭川美術館 講堂
- 3 出席者数 協議会委員12名中10名出席、美術館職員7名（館長及び正規職員）
- 4 出席委員 浅野智子、伊藤義晃（会長）、大石朋生（副会長）、坂井寿香、千葉幸恵、津辻としえ、中村欣也、橋場麻智子、村中一徳、両瀬 渉 [敬称略50音順]
- 5 次 第 (1) 開会
(2) 開会挨拶（北海道立旭川美術館長）
(3) 展覧会観覧
・第1展示室「蔵出し！木彫の味わい」展
・第2展示室「北海道美術の1980年代」展
(4) 議事
①令和5年度（2023年度）事業実施状況について
②令和6年度（2024年度）事業運営計画について
③その他
(5) 閉会

【議事録】

伊藤会長による議事進行。

事務局から令和5年度の展覧会等の実施状況及び令和6年度の事業予定等を説明し、各委員から旭川美術館の役割に期待することや今後の取組について意見や感想をいただいた。

<各委員からの主な意見等>

- 限られた予算などいろいろな制約がある中で工夫された取組を実施している。これからもクリエイティブな発想で様々なことをやっていただきたい。
- チケットの配布先の検討は難しいが、デザイナーやクリエイターにも興味のある人がいるので、そういうところにも配布すると良い。
- 令和6年度に予定されている「みんなの推しコレクション」は来館された方が投票すると説明があったが、SNS発信をしてほしい。
フォトスポットに解説もあってわかりやすい。写真を撮ってもらって、また広がる。写真が撮れることをもっと周知した方が良い。

- 期待していた展覧会の来館者数が思っていたほど伸びていなかった。観覧者のニーズ、好みが多岐にわたって難しいと思う。
「みんなの推しコレクション」により皆さんのニーズもわかり、良い。
- 学校の年間計画に入っていないと、授業として美術館で観覧することは難しい。オンラインを活用したものや出前授業などのプログラムがあれば、学校としても活用する可能性はある。
実物を観て感じてもらうのが良いが、仮にオンラインであっても、専門家から作品の見方を教わることに価値はあると思う。
- 「みんなの推しコレクション」やアートギャラリーなどでつながることができることも素晴らしいと思う。
- 子どもに絵や彫刻などの芸術の楽しさを教える機会があれば良い。お金を掛けなくても、旭川美術館賞のような子どもたちに励みとなるような取組があると良い。
ポスターやチラシを旭川教育大学の生徒や美術に携わる市民の方にデザインしてもらうことがあっても面白い。
- 今回観覧した展覧会は、至近距離で観ることができるので、素材の質感に触れることができた。
「竹久夢二」展で行われたお茶会をやっていた。お茶会を目的に来館し、ついでに鑑賞という形で観覧者が増えていくのは良い取組。
- 「みんなの推しコレクション」のように、親しみやすさをいかに還元していくかが、これからのテーマとなる。このような方法で実行されていくと地域に根ざした美術館がみえてくる。子どもたちが好きな作品について投票できるシステムや仕組みが実現できれば、将来にわたって作品を愛することが可能となるかもしれない。